



# 福知山線脱線事故から20年

## 今こそ安全で安心して働ける職場を創り出そう！



写真の引用:OMIYA NEWS No.173(2024年4月25日発行)

2005年4月25日、JR西日本福知山線の塚口～尼崎間で列車脱線事故が発生してから20年になります。この事故で乗客・運転士合わせて107名が命を落とし、562名が重軽傷を負いました。

福知山線脱線事故の背後要因として、航空鉄道事故・調査委員会(当時)は「**会社による懲罰的日勤教育や懲戒処分等の運転士管理方法が関与した可能性が考えられる**」と指摘しています。私たちは、安全よりも利益と列車運行を優先し、処分と異動で一方向的に管理する「命令と服従」の経営姿勢を許さず、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を確立するための運動を創り出してきました。

## しかし、職場実態はどうなっているのでしょうか？

現在職場においては「稼ぐ」や「融合と連携」のスローガンの下で、利益最優先の業務運営や各種施策が進められています。そして意識改革により職場風土が大きく変えられています。その結果、複数担務や企画業務の遂行による業務負担の増大と、要員不足による休日出勤や超勤の多発により職場は疲弊している実態となっています。

また各地で懲罰的とも取れる日勤教育や不当労働行為やハラスメント・暴行事件が発生しています。懲罰的日勤教育を受けた仲間が入院に追い込まれた事象が発生し、ハラスメント行為を受けた被害者が退職に追い込まれています。そして若手社員が勤務上の問題を解決するために話し合いを行う中で、逆上した管理者が若手社員に暴行を行い、虚偽のシナリオを捏造し若い社員に処分と転勤を強行する暴挙も発生しています。

この様な職場では社員は会社を信頼できず、安全綱領で謳う「安全のためには、職責をこえて一致協力しなければならない」が実現できなくなってしまう懸念が出る中で、東北新幹線における2度の列車分離事故など、多くの重大事故が発生しています。まさに**JR東日本における安全は危機的状況**と言えます！

## 私たちの職場を「福知山線事故前夜」にしないため、 「責任追及から原因究明への」安全哲学を再確立しよう！